

一

リニアモーターカーだけじゃない

食品中の金属片 超伝導で検出 開

この製品は「超伝導磁性金屬検出装置」。
豊橋市などが出資する
第三セクター「サイエンス・クリエイト」と、豊橋技術科学大学の田中三郎教授、食品加工機械メイカーラボ、「アドバンスフードテック」（豊橋市、鈴木一社長）が、5年前

リニアモーターカーの推進力として知られる「超伝導」が、食品安全確保にも一役買うことになった。愛知県豊橋市の第三セクターなどが、食品に誤って混入した金属片を検出する技術に応用した。製品化された最新鋭の装置は、異物混入事故で苦しんだ北海道の乳業会社に採用され、25日から運転を始めた。

(奥田悟)

開発5年、高精度実用化

医療関係者ら 万博で活躍

日本を売り込め
ファッショングで
日本のファッショング産業の国際競争力強化を目指す第1回「東京発日

「（JFW）が31
東京・神宮外苑の特
ノトで始まった。

手プランで「ミハシヤ
インズ」のショーアウェイ
関係者ら約700人に、
06年春夏の新作を披露し

約50ブランドのショール
海外のジャーナリストら
が集うシンポジウムなど
が行われる。

ンクに切り替
緯ミスが原因
て調べている

液体窒素で零下約20度にした高感度磁気センサー「超伝導量子干渉計（SQUID）」を使い、混入した金属片の磁気を検出する仕組みだ。超伝導は、極低温下で物質の電気抵抗が著しく下がる現象。リニアモーターカーでは、大量の電流を流せる性質を利用して強力な電磁石をつくり、車体を浮かせて走らせる。一方この検出装置

従来のX線や破裂式の装置では、製品に厚みや気泡があると感度が落ちた。だが、超伝導装置は、検出対象が鉄やステンレスなどに限られるものの、製品の状態やアルミの包装などに影響を受けて、これまで難しかった0・5%以下の異物も検出可能になつたといふ。

自玉回収したのがため、04年度決算は67年の創業以来初めての経常赤字となつた。信頼回復が課題となつた同社の切り札が、この超伝導装置だ。従来型の検出装置を使っていた同社はこれまで、製造ラインの速度を落とすことでの検出精度を高めるよう努めていた。「新しい装置の導入で、製造ラインに影響を及ぼす」となく検出精度を上げることができる」と同社は期待している。

た。同課が機体ころ、バルブツトされていくなかつた。左側のタンクは乗員は事じ、「燃料バつていな」る。同課は乗タンクのガス付かず、適切なかつた疑いている。

ン」を経済産業省が初めて支援し、日本の技術力を生かした素材の展示会などと同時に開催する。運営は国内アパレル企業の団体である日本ファッショング協会などが担当。官民で日本のファッショングを海外に売り込む。

会期は11月9日まで。

東京都四日市無高校にて不時着し、重軽傷を負つて一対ある燃料方がガス欠欠車のエンジンが停に起きた可能とが、警視庁からった。同店の燃料が残つて